同窓生シリーズ ㊹

三つの校舎

第二六回卒　森　伸二郎

現校舎は昭和四五年竣工なので、四六年に入学した私は出来立てほやほやの新校舎で学んだはずだが、なぜかピカピカの新校舎という思い出は全くない。校舎が新しくなるとそれだけで人気がでるが、当時はそれを理由に新宿を選ぶような風潮はなかったと思う。グランドにはまだ旧校舎が建っていて、一部部活動などに使われていた。興国の鐘の鐘楼もまだちゃんと残っていた（その姿は朝陽会館入口にスケッチであり）。入学した年にグランド整備のために取り壊されたのだから、旧校舎の最後の姿を見届けた学年ということになる。そして、五年前母校に舞い戻って、自分が学んだまさにその教室で、今は黒板を背にしているのだから縁とは不思議なものである。折しも単位制移行に伴って、新校舎がこの11月に竣工予定である。三つの校舎を体験するという、実に得難い経験をすることになる。現役諸君はこの校舎で学ぶ最後の生徒ということになるが、実に幸せなことだと思う。うだる暑さの中で勉強することはもう二度とない。良き思い出となるだろう。人間、楽をして過ごしたことを思い出にはしない。12月26日に今の校舎とのお別れ会を開く計画が進められている。この校舎で学んだ卒業生で、文字通り「千余の我ら」が参集し別れを惜しむ予定である。二度と使われることのない教室に万感の思いを込めてメッセージを残すかもしれない。現役諸君は現校舎の最後を見届ける選ばれた生徒である。あと数ヶ月、この校舎に青春の想いの全てをぶつけようではないか。